

臨床腫瘍学総論 (Clinical Oncology)

【責任者/担当者】

〔呼吸器・血液内科学〕 木島 貴志 主任教授

【担当者】

〔呼吸器・血液内科学〕 栗林 康造 教授
〔呼吸器・血液内科学〕 大搦 泰一郎 講師
〔呼吸器・血液内科学〕 池亀 和博 講師
〔消化器外科学(上部消化管外科)〕 篠原 尚 主任教授
〔消化器外科学(下部消化管外科)〕 池田 正孝 主任教授
〔乳腺・内分泌外科学〕 三好 康雄 教授
〔麻酔科学・疼痛制御学〕 佐伯 彩乃 助教
〔精神科神経科学〕 吉村 知穂 助教
〔産科婦人科学〕 鏑本 浩志 教授
〔放射線医学〕 富士原 将之 講師
〔病理学 分子病理部門〕 大島 健司 主任教授
〔病理学 病理診断部門〕 廣田 誠一 主任教授
〔公衆衛生学〕 大谷 成人 講師
〔遺 伝 学〕 大村谷 昌樹 主任教授
〔産科婦人科学/遺伝子医療部〕 澤井 英明 教授
〔がんセンター〕 西村 裕美子 看護師長
〔外来化学療法室〕 山下 典子 薬剤部課長

【目的】

実地臨床に必要な腫瘍学の基本、がんの発生メカニズムから生物学的特性、がんの疫学や薬物療法の基礎、がん治療に関わる心理的、社会的問題、新しい診断法や治療法の開発を理解する。そして、これらの知識が実際の臨床にどう結び付くのか、考えることを身に付ける。

【科目キーワード】

「臨床腫瘍学(Clinical Oncology)」「がんの発生メカニズム(Carcinogenesis)」「がんのバイオロジー(Cancer Biology)」「がんの疫学(Cancer Epidemiology)」「がんの薬物療法(Cancer Pharmacotherapy)」「精神腫瘍学(Psycho-Oncology)」

【到達目標(アウトカム)】

- がんの原因や遺伝子変化、ゲノム医療を説明できる。
- がんの病理診断、分類、ステージを概説できる。
- 5大がんの概要について説明できる。
- 化学療法の種類と適応、支持療法を概説できる。
- 腫瘍における緩和ケアを概説できる。

【ディプロマ・ポリシーと授業科目の関連】

- ・医療チームの構成員としての役割を理解し、保健・医療・福祉の幅広い職種からなるチーム医療を修得している。
- ・難治性の痛みを含め、患者の苦痛を理解できる。
- ・人体構造・機能を理解したうえで、適切な医療を説明できる。
- ・各疾患の病因・病態を説明できる。
- ・基本的治療法を説明できる。
- ・医学研究を知っている。

【概要ならびに履修方法】

この授業では、臨床腫瘍学全般の概要を理解できるように企画されている。がんの発生から診断、治療に至るまで幅広い知識の習得を目的とした総論である。さらにがんの治療に伴う、社会的、心理的 patient 支援も含まれている。各領域の専門家による、18コマの講義である。

【準備学修ならびに事後学修に要する時間】

特になし

(講義を聞いて理解できなかった部分、興味を持った部分に関してはさらに各自が自修する)

【成績の評価方法・基準】

筆記試験と出席および態度で評価。筆記試験 80%、出席・態度 20%。

【学生への助言】

復習をして、興味のある点は、自己学習してください。

【フィードバック方針】

試験についての解説講義を行う(特に低正答率問題)

【オフィスアワー】

曜日:月～金、時間帯:10時～16時

【受講のルール、注意事項、その他】

特になし

【教科書】

特になし

【参考書】

「新臨床腫瘍学(改訂第6版)」日本臨床腫瘍学会 編(南江堂)2021年

「Abeloff's Clinical Oncology(6th ed)」John E. Niederhuber、他 著(ELSEVIER)2020年

「がん研究のいま」(全4巻)鶴尾隆、谷口維紹 編(東京大学出版会)2006年

「がんの生物学(第2版)」Robert A. Weinberg 著 武藤誠、青木正博 訳(南江堂)2017年

「がんの統計」国立研究開発法人国立がん研究センターがん対策情報センター

http://ganjoho.jp/reg_stat/statistics/brochure/backnumber/index.html

【連絡先】

2号館5階 呼吸器・血液内科学(呼吸器内科医局)